

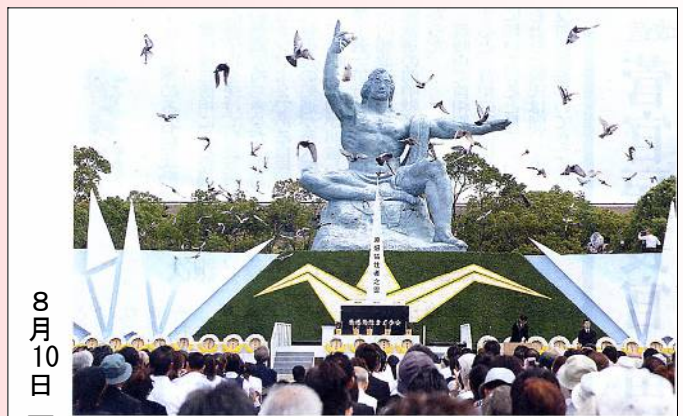
原爆投下から69年 集団的自衛権は平和の障害物だ！

原爆が投下されてから69年が経ちました。8月6日には広島で、9日には長崎で原爆犠牲者慰霊平和記念式典が開催されました。改めて犠牲者のご冥福をお祈りいたします。

式典で注目されたのが集団的自衛権の問題です。広島では言及されなかったものの、長崎市長は「集団的自衛権の議論を機に、『戦争をしない』という平和の原点が揺らいでいないか、不安と懸念が生まれている。政府はこの声に真摯に向き合い、耳を傾けよ」（要旨）と平和宣言で述べました。また、広島、長崎の各被爆者の代表や団体は、集団的自衛権の撤回を安倍首相に強く求めました。

言うまでもなく、集団的自衛権は戦争をするための一手段です。安倍首相ははっきりなしに「戦争をさせないため」などと主張していますが、戦争をしないならば集団的自衛権も軍隊も必要ありません。大多数の国民は安倍首相のウソを見抜いています。

JR東海労は、全ての戦争犠牲者の死を重く受け止め、集団的自衛権反対の闘いなど、反戦・平和の闘いを推し進めていきます。



平和祈念式典で放たれたハトと平和祈念像＝9日午前、長崎市の平和公園

長崎 原爆投下69年

8月10日『静岡新聞』

「平和の原点揺らぐ不安」

市長 集団的自衛権に言及

長崎は9日、被爆から69年の原爆の日を迎え、長崎市松山町の平和公園で市主催の原爆祈念式典を開催し、平和の原点が揺らぐ不安と懸念が、急

- 長崎平和宣言骨子**
- 核兵器保有国と「核の傘」の下にいる国は、核兵器の禁止を求める国々との協議の場をつくれ。その先頭に立て
 - 集団的自衛権の議論を機に、「戦争をしない」という平和の原点が揺らいでいないか、不安と懸念が生まれていないか、耳を傾けよ
 - 福島の復興を願い、支援を続ける
 - 原爆症の認定制度の改善など支援の充実を望む

長崎は9日、被爆から69年の原爆の日を迎え、長崎市松山町の平和公園で市主催の原爆祈念式典を開催し、平和の原点が揺らぐ不安と懸念が、急

長崎市長は「集団的自衛権の議論の中で生まれてくる被爆地の拒否反応は、この声に真摯に向き合い、耳を傾けよ」と述べ、政府に「戦争をしない」という平和の原点が揺らぐ不安と懸念が、急

立っことも求めた。式典には原爆投下国である米国のケネディ駐日大使が参列。米國を含め過去最多となる48カ国と欧州連合（EU）の代表ら参列者計約5000人は、原爆投下時刻の午前11時2分に黙とうした。犠牲者の冥福を祈った。安倍首相はあいさつで「現実的、実践的な核軍縮を進めている」と述べた。